

田中委員からのご意見

- 今回の警戒レベル相当情報の整理は、災害を引き起こす個別の現象毎に情報発信していこうとするもので、起こり得る災害を分かりやすく伝えるという考え方は理解できる。一方、例えば台風ときには洪水、浸水、高潮、土砂災害、暴風の情報が立て続けに発表されることを考えると、台風という災害を引き起こす気象現象でまとめて情報発信する方が分かりやすいという考え方もある。雷注意報と竜巻注意情報も同様。このような個別の現象毎の情報発信、災害を引き起こす由来となる気象現象でまとめた情報発信、両者の特徴をどう活かすかを利用側から見た議論が必要なのでは。
- 「警戒レベル相当情報」と「警戒レベル相当情報以外の警報・注意報」の分類で議論されているが、暴風が吹き始める前 = 暴風警報発表のタイミングで、避難判断が求められる。大規模河川の洪水予報と内水氾濫との関係と相似。個々の情報だけではなく、関連する情報総体に関して、使う側の利用の仕方や利用しやすさから検討が必要なのでは。
- 「警戒レベル相当情報以外の警報・注意報」は、利用者の多様性と発令基準の設定の仕方から議論されている。むしろ警報の枠組みを使うのか、予測結果を直接提供していくのか、また後者の場合には民間事業者との関係についても議論することも重要では。